

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 小石 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関して問われていることについては、昨年度に引き続き、理解できている児童が多い。「読むこと」は理解できていると考えられる一方で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」には苦手意識をもっている児童が多いと分かった。
	よくできた問題	物語の自分の考えを書き表す問題、漢字の問題
	努力が必要な問題	目的や意図に応じた情報処理や書き表す問題
算数	全体的な傾向や特徴など	「図形」と「データ活用」に関して問われていることについては、一定の理解ができている。しかし、文章問題の中から、示されている関係を的確に理解し、立式・説明することに関しては、課題がある。
	よくできた問題	図形の特徴を捉えて説明する問題、グラフで示された内容の理解
	努力が必要な問題	円の特徴に関する問題、速さに関する問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTについては、積極的に活用して学習に取り組むことができている児童の割合が多い。調べ学習をはじめ、自分の考えをまとめる思考ツールなど、効果的に活用していけるよう継続して指導していく。 ・自尊心について問う質問（自分の長所があるか）に関しては、9割の児童が肯定的な回答をしている一方、1割の児童は否定的な回答をしている。また、将来の夢や目標の有無を尋ねられた質問に関しても、否定的な回答がやや多い。学級活動などの学習を活用して一人一人が活躍する場を設定したり、キャリア教育の内容を充実したりして、継続的な指導にあたる。 ・学級での活動に関しては、友達のことを大切にしながら問題解決に取り組んだり、互いの意見のよさを生かして学級生活をよりよくするための解決方法を決めたりする児童が多いことが分かった。日頃の学級活動に対して、意欲的に取り組んでいる成果であると考えられる。 ・家庭学習に取り組む時間に関して、平日は1時間以上と回答した児童の割合は半数以上となっており、全国平均をやや上回っている状態である。家庭学習の時間と質の確保に関して、児童と家庭に向けた啓発を継続して図っていききたい。 ・ゲームやスマートフォンを扱う時間（一日当たり）が3時間以上と回答した児童の割合が、全国の平均回答と比べると多い状態である。家庭と連携して、使い方のルールの見直しを図る必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読むときに、理解できるまで何度も繰り返し読んだり、絵や表などの思考ツールを活用し、状況を整理しながら読んだりすることができるように日々の学習で継続して指導していく。 ・基礎基本的な漢字の読み書きや計算を中心に、小石タイムを活用しながら継続した指導に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームやスマートフォンの使用に関して、外部講師を招いた学習などを通して、家庭でのルールの再確認をする場を設定する。 ・家庭学習の意義や方法については、学級活動（3）で指導する。また、学校・学年通信を活用して家庭への啓発を行う。特に、高学年に関しては、中学校区共通の自主学習ノート「KOYOノート」の活用を推進していく。
